

設備工事情報シート	衛 生	Ⅱ－P-65	制 定	2008年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	耐熱排水トラップ		クボタシーアイ編	

1. 目的・概要

エコキュートや電気温水器は貯湯タンクに熱湯（最高90℃）を貯めて貯湯するシステムであるが、集合住宅では貯湯タンクがP S 内やバルコニーに設置される場合が多い。このタンクからは湧き上げオーバーフロー水やメンテナンス時の高温水が雑排水系統に連続排出されるため、耐熱・防臭処置が必要である。ここに耐熱排水トラップの特徴を示し、設計・施工上の注意点を紹介する。

2. 施工の手順

主に集合住宅で採用される耐熱排水トラップは写真を使い、接続手順・内部トラップの構造、取り扱い方の説明を行なう。

(1) 接続手順

①開封後の確認事項



1) 開封後、本体接続部のナット内に下記部品が入っていることを確認する。

・ ゴムパッキン 1個

・ ポリパッキン 1個

以上2点

②接続部品の取り付け

・ ゴムパッキン、ポリパッキン、ナット



1) ゴムパッキンの向きに注意。

2) ポリパッキンは忘れずに必ず取付る。

3) ポリパッキンの取付け位置を確認する。

4) 管に傷や汚れのないことの確認を行なう。

③本体と排水管の接続



1) ゴムパッキンにねじれのないよう装着する。

2) 滑材や接着剤等は使用しない。

3) 差込み不足のないように接続する。

40 A ・ 50 A とも本体差し込み長さ40mm

④袋ナットの締め付け



1) 締め付けは手で強く締めつける。

2) パイプレンチ等の製品を傷つける恐れのある工具は使用しない。

締め付けトルク

40 A 5～6N・m (0.51～0.61Kgf・m)

50 A 8～10N・m (0.82～1.02Kgf・m)

資 料

(2) 注意点

- ①排水トラップ上部の吐水口空間を確保する。
 - ②タンクからの排水管は、できる限り排水トラップの中心に位置するように配管する。
 - ③コンクリート内への据付け・配管はしない。
 - ④給湯機器の直近に設置させる。
 - ⑤表面劣化を防ぐ目的で、直射日光を避ける配置を計画する。
 - ⑥耐熱排水トラップに悪影響を及ぼす恐れのある溶剤に触れさせない。
 - ⑦熱伸縮を考慮の上、配管する。
 - ⑧定期的にゴミが溜まっていないかトラップ内の点検と清掃を行なう。
- 主に集合住宅で採用される耐熱排水トラップは写真を使い、接続手順・内部トラップの構造、

(3) 取り扱い方

- ①目皿にゴミ等が溜まったら取り除く。
- ②目皿を外した状態では使用しない。
- ③分解する場合には下記要領に従う。



1) ステンレス製目皿を外す。

- ・ 目皿に裏表はありません。
- ・ 目皿の溶接加工部で手を切らないように注意する。



防臭パイプ

2) 防臭パイプを反時計方向に回転させて引き抜く。
パッキンを確認する。

- ・ 回転しにくい場合は、市販のトラップ回しを使用する。
- ・ ハンマーで衝撃を与えて取り外さない。

4) 管に傷や汚れのないことの確認を行なう。

3) 点検清掃後、上記の手順とは逆の手順で部品を取付ける。



パッキン

- ・ パッキンを忘れないこと。
- ・ パッキンの代わりにシリコンなどを使用しないこと。
- ・ 設置完了後、水を適量注ぎ封水機能を回復させる。

3. 使用条件

- ・ 使用温度範囲 5～90℃ 高温排水（外圧無しの無圧管）
- ・ 一般管との接続では排水温度が60℃以下になっていることとし、60℃を越えるようであれば耐熱パイプを使用すること。
- ・ 接着剤使用のときは、専用接着剤（タフダイনHT）を使用のこと。
- ・ 現場にて本製品への穴あけや切欠きなどの加工はできない。

4. 問い合わせ先

クボタシーアイ（株）	東京本社	設備・プラント営業部	東日本営業第二課	TEL. (03) 5246-7865
クボタシーアイ（株）	大阪本社	設備・プラント営業部	西日本営業第二課	TEL. (06) 6648-2890